

ラグビー精神の中の moderate (中庸)

moderate はラグビーの精神では大切な言葉の一つです。

余談ですが、最近では安倍首相が中東政策のスピーチで「伝統を大切にし、中庸を重んじる点」と使われていました^(*)。

moderate (中庸) は fighting spirit (敢闘)、reasonable (常識) 等と共にラグビー精神の根幹にある humanism にあふれた enjoyment (楽しみ) の根底にある言葉です。

moderate を始めて知ったのは scrum で ball in についての話の中でした。今日 ball in は law20 に定義されています。ball の速さについて規定はありませんが、Law20.6.(c)のすばやい動作で投入する、Law20.6.(e)の後へ引く動作をせず、前方へ単一動作で投入する。以上規則から生じる速さということになっています。ラグビーに scrum が導入された当時から問題になったことの多くは a ball fairly put into scrum (ボールが公平に入る) にならなかった場合でした。1971 年には Law20.9.(c)^{(*)2}に遅滞なくフェイントや後ろへの手を振ることなどなく前への一振りで at quick speed straight と定義しています。文字になっていなかった曖昧さを解決するために moderate でなく quick となりました。その後はずっと moderate が精神的支柱として導かれてきました。

moderate には文字では表すことの出来ない「幅」があります。阿部首相の言動に幅がないような印象がありました。スピーチの言葉を見てラグビーのことを思い浮かべました。

TV で観戦していると scrum の ball in で scrum half の立つ位置や ball が投げ入れられる方向が fair でないような印象を持っていましたので久しぶりに Law の歴史を読み返してみました。

追記

西川ラグビーコラムがしばらくの間途切れていました。以下既刊小冊子の作成に専念していました。

- ① Discover rugby : ラグビーの identity を楽しむ (2013 年 3 月 20 日出版)
- ② Review rugby : ラグビーを楽しむための基準と原点 (2014 年 3 月 20 日出版)
- ③ レフリングの基準 : referee, player and spectator のための "the art of refereeing" の読解 (2014 年 12 月 22 日出版)

再びコラムを始めて皆さんとの交流を広めていきたいと思えます。

尚、小冊子をご所望の方はお申し出ください。

*1 : http://www.mofa.go.jp/mofaj/me_a/me1/eg/page24_000392.html

*2 : 1971-1972 の競技規則 20 条 9 は以下の通り

- (9) The player putting in the ball shall
- (a) stand one yard from the scrummage and midway between the two front rows;
 - (b) hold the ball with both hands midway between the two front rows at a level midway between his knee and ankle;
 - (c) from that position put in the ball
 - without any delay or without feint or backward movement, i.e. with a single forward movement, and
 - at a quick speed straight along the middle line so that it first touches the ground immediately beyond the width of the nearer prop's shoulders.